

# 大学の取り組み

## 「地域と伝統文化」教育プログラムの取組

プログラム実施担当者・特任助教 青木 智史

### 「地域と伝統文化」

#### 教育プログラムの取組

本学が位置する「奈良」は、我が国でも有数の伝統文化・文化財が根ざす地であり、古くは世界に開かれた国際的な文化交流の拠点でもあった所です。「地域と伝統文化」教育プログラムは、その豊かで広範に及ぶ奈良の伝統文化・文化財を基軸に、日本各地やその源流としてのアジア地域などの伝統文化・文化財との関連性を探り、同時にアジアを中心とする諸地域との異文化間の相互理解なども鍵として、大学院教育を充実させていくことを目的としています。

本教育プログラムは、大学院教育改革支援プログラムの一つとして採択され、大学院教育の実質化を目的に、平成19年度から3カ年度にわたって実施いたします。

本学ではこれまでも、伝統文化・文化財教育と異文化理解教育の二つの系において、優れた研究・教育の実績を積み重ねてきました。その二つの系を核として、全学に開かれた教育プログラムを実施していきます。実施初年度であった平成19年度は、皆様のご理解とご助力により、当初の予定通り遅延なく進めることができました。また現在、アジア各国の教育大学とネットワークを結ぶ「アジア教育

大学国際交流ネットワーク」の構築を模索しています。今後も、皆様とともにプログラムを成功に導ければ幸いです。

### 新たに展開される授業科目の紹介

本教育プログラムでは、共通コア科目、実践コア科目、深化科目を新規授業科目として展開していきます。昨年10月から開講している共通コア科目「世界のなかの奈良」は、座学だけでなく実践体験や実地研修を重視し、伝統文化・異文化の教育力をこれまで以上に積極的に活用した授業科目です。授業で得た経験を生かして、院生が自発的に優れたワークショップを開発するなど、実質的な授業が展開されました。

平成20年度からは、実践コア科目「伝統文化発信法1・2・3」が新規授業として展開されます。この授業は、伝統文化を「学習」「理解」することに加え、その成果を「発信」することに重点を置いて展開されます。また、平成19年度は、従来から本学大学院で展開されている、「地域と伝統文化」に関連する授業科目を束ねた深化科目が50科目展開され、平成20年度以降もさらなる充実を目指して展開していきます。



連続講座にて講義する北村昭斎氏

### 「地域と伝統文化」

#### 教育連続講座の開催

本教育プログラムでは、「奈良」という地域の特徴ある伝統文化、またその源流としてのアジアに焦点を当てたテーマを取り上げ、学内外の専門家を講師として招いて行われる「奈良教育大学「地域と伝統文化」教育連続講座」を開催しています。大学院生の知見を広めることはもちろんのこと、大学院教育に留まることなく、学部生や一般の方々にも広く開かれた公開講座としての性格も併せ持つて

# 大学の取り組み

います。平成19年度から平成21年度末まで、ほぼ月に一回のペースで開催する予定です。執筆現在で四回の講座を実施いたしました。

連続講座第一回は「青磁からみる中国陶磁史」と題して筆者が、第二回は「螺鈿のはなし」をテーマとして「漆工（螺鈿）」の重要無形文化財保持者（人間国宝）である奈良在住の北村昭齋氏が、第三回は「アジアの中の頭塔」と題して本学准教授の山岸公基氏、そして第四回は「ペルシア文化の日本への流入」をテーマに大阪外国語大学名誉教授の井本英一氏を講師として招いて実施いたしました。それぞれ大学院生を中心に、学部生や一般の方々を含む多数の参加があり、最新の研究成果が紹介され、活発な意見交換が交わされました。今後も継続的に実施していく予定です。皆様のご理解とご協力、また積極的なご参加を期待しております。

## ■ アジア教育大学

### 国際交流ネットワークの構築

「地域と伝統文化」教育をテーマとするネットワーク構築をめざし2008年3月から逐次実施するアジアの提携校訪問第一弾として、3月3日～3月6日の日程でインドネシア・バンドゥン所在のインドネシア教育大学を公式訪問しました。和やかな雰囲気の中で会談が行われ、教員・大学院生の相互訪問やプログラム

評価委員会への参加について基本的に合意が得られました。この後も、3月19日～3月21日の日程で韓国・大邱所在の嶺南大学校、3月24日～3月26日の日程で中国・西安の西安外国語大学を訪問し、アジア教育大学国際交流ネットワークの名称にふさわしい相互連携を図っていく予定です。

## ■ 海外実地研修の実施

本教育プログラムでは、大学院生が実践体験や実地研修を通して獲得する知識や経験、そしてそれらを養分として培われる力量などを非常に重要視しています。

先述のインドネシア教育大学訪問に続き、3月6日～3月11日の日程でインドネシア・ジャワ島中部のジョグジャカルタ市とその近郊で大学院生の海外実地研修を実施しました。ジョグジャカルタ市近郊には世界文化遺産に登録されているチャンデイ・ボロブドゥールやチャンデイ・プランバナナ等、7世紀～9世紀を中心とする仏教・ヒンドゥー教の寺院遺跡が集中的に所在し、正倉院宝物や高畑町所在の頭塔といった奈良の文化財や遺跡とも、中国などを経由しながら一部近接する様相を示していることがあらためて実感されました。大学院生の海外実地研修については、公開ミニシンポジウムやホームページ等で今後も継続的に発信してまいります。

## 「地域と伝統文化」教育プログラムのモデル図

